

自然博物館
ニュース

A·MUSEUM ア・ミュージアム

vol.24
[2000.6.25]



ミュージアムパーク
茨城県自然博物館



©大津昭治

岩壁にたくましく生きる —ミヤマスカシユリー—



©大津昭治

夏の花から大型のユリを連想する人は、決して少なくないでしょう。

上の写真は、ミヤマスカシユリー *Lilium maculatum* var. *bukosanense*です。本種は岩壁などにまれに見られ、茎は垂れ下がり、花びらは強くそり返るのが特徴です。昭和17年に埼玉県の武甲山で発見されてから、日本ではそこだけに生育すると思われていました。しかし、昭和40年、茨城県北部においても生育が確認されました。海岸に普通に見られるスカシユリー *Lilium maculatum* (左)とは同じなかまで、花びらと花びらの間にすき間があることから「透百合」と言われています。

近年、乱獲により個体数が減少していますが、自然の中で生きる姿が一番美しいですね。

(資料課：太田俊彦)

見て聞いて 觸れて わくわく ミュージアムパーク

第19回企画展

蟹の泡吹き・エビのつぶやき

—その多様性を探る—

Explore the Diversity of Crustaceans -Miraculous Functions in Fabulous Shapes-



やつと海岸に着いたアカガニの抱卵メス
©鷺田太郎

クリスマス島のアカガニの大移動
©鷺田太郎

私たちにとって、とても身近な存在であるエビとカニ。磯遊びの中で、あるいは食卓や民話の中で、誰もが一度はお目にかかったことがあるでしょう。そんなエビとカニは節足動物の中の「甲殻類」というグループに属しています。現在、甲殻類は微小なミジンコの仲間から、大型のエビやカニの仲間に至るまで5万種以上が知られ、水中のあらゆる環境で大繁栄を遂げています。また、水中だけにとどまらず、ダンゴムシのように陸上まで進出している種類もいます。

今回の企画展では、エビやカニを中心、様々な環境に適応した甲殻類の多様な姿にスポットを当て、甲殻類の分類から生態、さらに県内に生息するエビ・カニ類、人との関わりなどを紹介します。

特に、最初のコーナーでは、世界最大の甲殻類であるタカアシガニが生きたまま展示され、採集から展示に至るプロセスをビデオやパネルで紹介します。また、「多様な生息環境」や「環境への適応」のコーナーでは、深海から高山まで、地球上の様々な環境で工夫をしながら生活する甲殻類の姿を知りたいだけののではないでしょうか。このような身近な生き物たちとおして、自然を再認識し、生物の多様性を保つとはどういうことなのかと一緒に考えてみませんか。

(資料課: 池澤広美)

会期 平成12年7月8日(土)~10月1日(日)

開館時間 午前9時30分~午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日 毎週月曜日

入館料 大人 720円(580円)

高・大学生 440円(300円)

小・中学生 140円(270円)

* () 内は20名以上の団体料金です。

* 65歳以上の方、障害者手帳をお持ちの方は入館無料です。

* この料金には、常設展・野外施設入場料が含まれています。

記念行事

- 企画展記念シンポジウム 7月16日(日) 13:30~15:30

- ミュージアムコンサート 7月16日(日) 17:30~18:30

- 企画展記念講座 「ざりがに」から学ぼう身近な自然

8月6日(日) 13:00~15:00

* 記念行事は、実施日の2週間前までにお申し込みください。



卵を抱いたテナガエビ



ヤドカリイソギンチャクを背負ったケスジヤドカリ



アメリカカブトエビ



ニセゾウミジンコ



オカダンゴムシ

研究ノート●茨城県中～南部海岸の植物

植物研究室では、第2次総合調査（茨城県央地域における維管束植物）の中で、茨城県中～南部海岸のフローラ調査（どこにどのような植物が生育しているかを明らかにする調査）を実施しました。調査は、1997年～1999年の3カ年にわたり（冬期は除く）、波崎町からひたちなか市に至る約100kmの海岸線を中心とした46カ所を対象として、47回行いました。

今回の調査では、鹿嶋市の大小志崎が太平洋側での自生地の南限であるといわれているハマナスが、波崎町にも自生していることを確認しました。このように、従来の調査や文献では報告されていなかった生育地をいくつかの種で確認しました。また、この地域では今までに報告がなく、今回の調査で新たに確認された種もみられました。これらの中の大半は、アカバナルリハコベやオニハマダイコン等の比較的新しい帰化植物でした。さらに、マヤランやハマカキランなど、環境庁のレッドリストに記載されている種について生育地の現況を確認しました。

下の表は、今回の調査で特徴的にみられた主な植物ですが、その中のいくつかを紹介します。

南北に長い日本列島の中で、茨城県はちょうど中央付近に位置しています。また、茨城沖で寒流と暖流がぶつかり、北方系の植物と暖地性の植物の両方がみられます。この中には、茨城県を分布の限界としているものもあります。

表1 主な植物

種名	科名	分布の特徴	レッドリスト基準	備考
ハマナス	バラ	南限（波崎町）	危急種（茨城県）	
マルバトウキ	セリ	南限（ひたちなか市）	危急種（茨城県）	
エゾオオバコ	オオバコ	南限（ひたちなか市）	絶滅危惧種（茨城県）	
シロヨモギ	キク	南限（大洋村）	危急種（茨城県）	
コハマギク	キク	南限（ひたちなか市）	希少種（茨城県）	
ハマギク	キク	南限（ひたちなか市）	希少種（茨城県）	
タイトゴメ	ベンケイソウ	北限と思われる	危急種（茨城県）	ひたちなか市
カクレミノ	ウコギ	北限に近い		
ハマウド	セリ	北限と思われる		
カラタチバナ	ヤブコウジ	北限に近い		
ネコノシタ	キク	北限に近い		
ワセオバナ	イネ	北限と思われる		
ビロードテンツキ	カヤツリグサ	北限に近い	絶滅危惧 I B類（環境庁）	
マヤラン	ラン	北限と思われる	危急種（茨城県）	ひたちなか市
コクラン	ラン	北限に近い	絶滅危惧 II類（環境庁）	
ハマカキラン	ラン			



シロヨモギ



©大内 董

表2 新たに確認された植物

種名	科名	生育地	備考
オニハマダイコン	アブラナ	波崎町	帰化植物
メノマンネングサ	ベンケイソウ	ひたちなか市	
ハチジョウクサイチゴ	バラ	大洋村	
トガリバツメクサ	マメ	波崎町	
ハマウド	セリ	波崎町	帰化植物
アカバナルリハコベ	サクランボ	鹿嶋市、神栖町、波崎町	北限
タチオオバコ	オオバコ	波崎町	帰化植物
ハマコンギク	キク	ひたちなか市	帰化植物
アメリカオニアザミ	キク	神栖町	帰化植物
イガオナモミ	キク	大洗町、鹿嶋市、波崎町	帰化植物

●南限の植物

今回の調査では、本調査域を南限とする植物6種を確認しました。これらはすべて、茨城県のレッドリストに記載されています。

ハマナス（バラ科） *Rosa rugosa*

危急種（茨城県）

海岸の砂地に生育し、太平洋側では茨城県南部海岸を南限としています。今回の調査では、国指定天然記念物ハマナス自生南限地と波崎町指定文化財ハマナス群生地を含む6カ所で生育を確認しました。

シロヨモギ（キク科） *Artemisa stelleriana*

危急種（茨城県）

海岸の砂地に生育し、茨城県旭村玉田海岸が南限とされています。今回の調査では、大洋村、鉢田町、旭村で計5カ所の生育地を確認しました。しかし、玉田海岸の自生地は護岸工事のために消滅していました。

●北限の植物

今回の調査では、本調査域を北限またはそれに近いとしている植物を9種確認しました。その内の3種は、従来北限とされている生育地よりも北よりの地点で確認しました。

タイトゴメ（ベンケイソウ科）

Sedum uniflorum subsp.*oryzifolium*

海岸の岩上に生育し、太平洋側では銚子市が北限とされています。今回の調査では、ひたちなか市、鹿嶋市、神栖町で計5カ所の生育地を確認しました。

ハマウド（セリ科） *Angelica japonica*

海岸に生育し、銚子市が北限とされています。これまでの調査では、茨城県での生育は確認されていませんでした。今回の調査では、波崎町の1カ所で生育を確認しました。



ハマウド

©須田直之

●希少植物

今回の調査では、環境庁のレッドリストに記載されている植物が2種確認されました。

マヤラン（ラン科）

Cymbidium nipponicum

絶滅危惧 I B類*（環境庁）

危急種（茨城県）

照葉樹林下に生育し、関東地方南部以西に分布します。日立市での生育が再確認されていないので、今回確認されたひたちなか市の1カ所が北限と思われます。



マヤラン

©大内 董

ハマカキラン（ラン科）

Epipactis thunbergii var.*sayekiana*

絶滅危惧 II類**（環境庁）

危急種（茨城県）

青森県～愛知県の海岸のクロマツ林内に生育します。今回の調査では、大洗町、神栖町、波崎町で計4カ所の生育地を確認しました。

*絶滅危惧 I B類： I A類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。

**絶滅危惧 II類： 絶滅の危険が増大している種。現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧 I類」のランクに移行することが確実と考えられるもの。

(資料課：廣瀬孝久)

展示品紹介●種子植物の花の拡大標本

館内の展示物を順路にそって見てゆくと、最後にたどりつくのがディスカバリー・プレイスです。その中に私たちがとても大事に考えている展示物があります。あまり自己主張が強くないので、来館者の皆さんに気付いてもらえないことさらあるのですが、そこにあるのは8つの花の拡大模型です。

植物の分類は花のつくりを中心に組み立てられており、種子植物に関しては以下のようになっています。

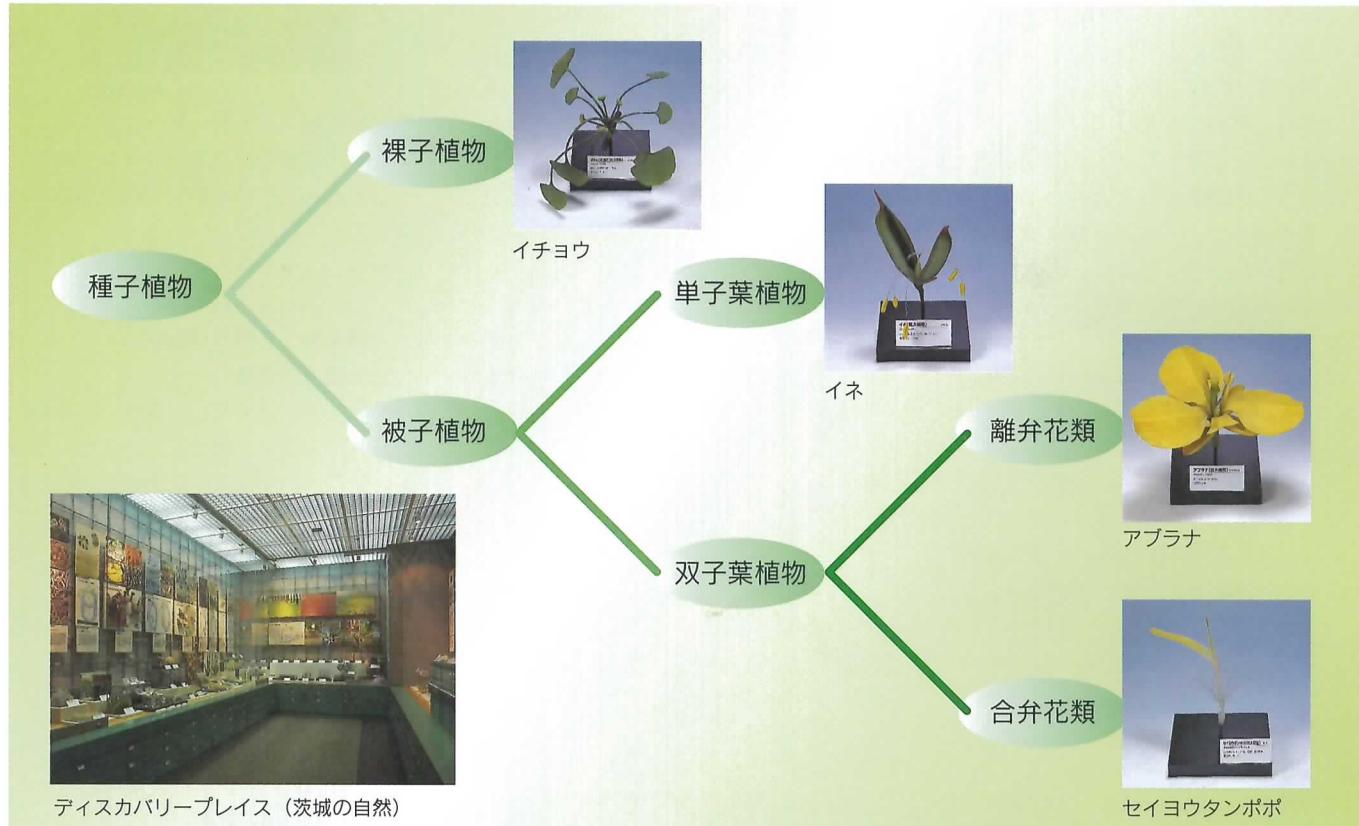
8つの模型は各グループのうちの花を2種類ずつ正確に拡大してつくられたものです。イチョウの雄花と雌花は裸子植物、アブラナとノイバラは被子植物のうちの双子葉植物の離弁花類というグループです。アサガオとセイヨウタンポポは前のグループと比較的近いのですが、花びらが離れていないので合弁花類です。ヤマユリとユニークな形のイネの花は実は同じグループの単子葉植物に属しています。

それぞれが、身の回りに普通に見られ

る植物で、教科書にもよく登場してくるものです。そして、それが私たちがこれらの模型を特に大事に思っている理由でもあります。

全てのものが足早に目の前を通り過ぎていってしまう今の時代にこそ、当たりまえのものをしっかりと見ておくという行為が大切なではないのでしょうか。知っているから、教科書で見たからという思いから離れて、もう一度あらためて目を開いてみませんか？

(教育課：高野信也)



野外だより●岩石になった木・珪化木

自然博物館の野外施設を歩いていると、さまざまな岩石と出会うことができます。全国的に知名度の高い稻田石（花崗岩）や国内では4力所程度しか産出しないリチウムペグマタイトなど、数十種類の岩石がネイチャートレイルコース沿いに置かれています。それらを観察したり、クイズを解いたりながらコースを巡ってくると、最後に岩石らしからぬものがあります。それが珪化木です。

珪化木とは、木が地中に埋もれて幹の部分の組織に珪酸分がしみこんで石化したもので。細胞の中にメノウやオパー

ルが晶出して石になったものです。また、うろになっているところには仏頭状の玉髄ができることもあります。さらに、年輪などの構造も残つており、それを数えることで、樹木の生存年数が簡単に推定することができます。

珪化木は、茨城県では那珂川や久慈川の河原でも発見されていますが、アメリカのアリゾナ州では、長さ30m以上、直径2mに近いものもあります。

(資料課：宮崎淳司)



歳時記●シロギス *Sillago japonica*



「キス」の仲間には、アオギスとシロギスがいます。しかし、アオギスは、九州の一部と台湾にわずかに残るだけで日本ではほとんど見られません。現在、一般に「キス」とよばれているものが、シロギスです。

シロギスは、北海道南部から本州、九州と日本のほとんどの海に生息しています。食用とされる魚で、開いたものが天

ぷらや刺身、塩焼きなどとして好まれています。白身で淡泊な味の魚ですが、これから時期がもっともおいしいといわれています。

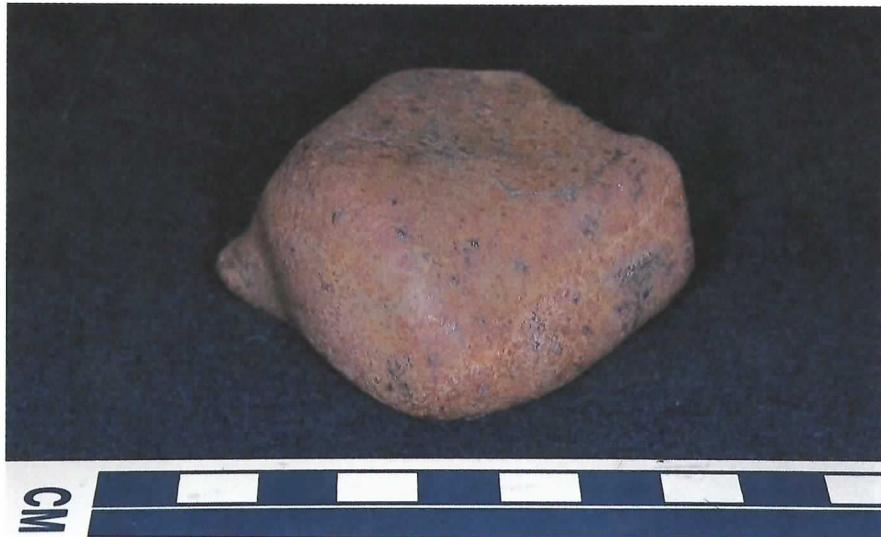
また、釣りの対象魚としても人気があります。1年中釣れる魚ですが、水温が上がる夏には産卵のため岸辺に近い岩礁に姿を現します。この時期から秋までがもっとも良く釣れる時期です。穏やかな

天気の日にはよく釣れます。水が濁るような日にはあまり釣れません。大きさは、体長20cmほどのものが一般的ですが、時には30cmの大きなものも見られます。

体の色は、透き通るようなあめ色をしています。沿岸の砂底の地域、深さは底から16cmまでに群をなして生活しています。前方へ素早く泳ぐことは得意ですが、右へ左へと小回りをきかせた泳ぎは苦手なようです。たいへん臆病な魚で、おどろかせると砂に潜って姿を隠してしまいます。砂に潜ってじっとしている様子は、とてもかわいらしく見えます。シロギスは、昼行性の魚なので明るい日に活動します。夏場の30℃近い水温でも、元気よく餌を食べます。そのため、家庭用の水槽でも比較的容易に飼育することができます。餌は、釣りでコマセとして使われる冷凍アミや人工餌を用います。水槽の中で、きらきらとパールピンクにからだを光らせて泳ぐ姿は、とてもきれいです。

(教育課：中嶋政明)

収蔵品紹介●柴山隕石



柴山隕石

日本は世界でナンバーワンの隕石保有国です。それは、国内で発見・落下確認したもののはじめ、南極昭和基地の調査隊が同大陸で約9,000点もの隕石を見ているためです。

現在、日本国内に落下したことが判明している隕石は47個あります。では、博物館の近くでは、今までどんな隕石

が落下しているのでしょうか。

1番近くで落下したことが確認されているのは、大正時代、博物館からほんの数kmのところ、岩井市神大実地区に落下した神大実隕石です。所蔵は個人ですが、現在、上野の国立科学博物館に寄託し展示されています。2番目は、1996年1月7日に、つくば市を中心とした県

南地域において、シャワー状に細かく分裂しながら落下したことで知られるつくば隕石です。落下時には、『ズドドドド～ツ』という衝撃音を聞いた方も多いと思います。

さて、写真は千葉県山武郡柴山町で発見された、当館所有の柴山隕石です。つくば隕石に次いで、博物館から3番目に近い所で発見された隕石です。隕石は石質隕石、石鉄隕石、隕鉄の3グループに大別できますが、柴山隕石はこのうちの石質隕石のなかで、コンドライトというタイプです。

コンドライトには、コンドリュールとよばれる直徑数mmの球粒が含まれています。これは、今から四十数億年前の原始太陽系時代に重力がはたらかない空間で形成されたと考えられ、当時の太陽大気に近い組成を持つっています。

隕石は、太陽系の起源を探るうえでは大変貴重な資料であり、かつ、人類が手にすることのできる数少ない地球外生成物なのです。

(資料課：高橋 淳)

館職員レポート●山崎 晃司（教育課・動物研究室）

茨城県自然博物館には開館の翌年の1995年より勤務しています。大型哺乳類であれば何でも楽しい方なのですが、その中の専門は何かと聞かれれば、野生動物の管理学ということになるでしょうか。体が動く限りフィールドワーカーでありたいと日々思っているのですが、得られた結果を多くの人々に分け与えることのできる伝道者（？）でもあります（多分）。

学生時代は栃木県の足尾山地と神奈川県の丹沢山地で、ニホンジカの個体群動態調査、特に異常積雪による大量死の発生メカニズムや、若齢個体の分散様式について研究していました。その後機会があり、南部アフリカ・ザンビア共和国のルアンガワ・バレーに、国立公園局の職員として勤務しました。成獣オスに偏った狩猟圧が、ライオンの社会システムに与える影響についての評価が、その時の研究テーマでした。気持ち的にはそのままアフリカにさらに留まりたかったのですが、諸般の事情により帰国し、東京都の高尾自然科学博物館に職を得ることに

なりました。そこで始めたのが、現在も引き続きのテーマとなっているツキノワグマです。興味は多々あるのですが、クマの土地利用形態の把握と、その生息環境の質の評価、またそれらの歴史的変化の整理が主なテーマです。

茨城県自然博物館での勤務開始は冒頭に述べたとおりですが、残念なことに本県には大型の哺乳類はイノシシしか残存しません。クマ、シカ、カモシカ、サルなどはすでに姿を消して久しいようなのですが、なぜ絶滅してしまったのか、その考え得る原因についても、これから調べてみようと思っています。埼玉、栃木、東京、群馬に残って、なぜ茨城ではいな

くなったのか、ひじょうに興味深いテーマになりそうです。

さて哺乳類に関するフィールドワークですが、最近は志す若者が減少しているように思え、寂しい限りです。確かに限られた期間で論文をまとめることは、ラボワークに比べれば容易ではないかも知れません。十分な揃えられたデータを得ることは、なかなか簡単ではないからです。また典型的な3K仕事の側面も確かにあります。しかし山を歩き回ることはそれだけで爽快ですし、ねらったデータが取れた時の喜びはひとしおです。

今日も重たい機材を担いで山に向かいます。



栃木県足尾山地でのシカ調査：
単車が唯一の調査車両



ルアンガワでのライオン調査：
うだるような暑さ



奥多摩山地でのクマ調査：学術捕獲された若く美しいオスグマ



かくしてまた山に向かう。悦、悦！

コラム by director NAKAGAWA ◎9億円の恐竜

最近の外電によりますと、1990年にアメリカ・サウスダコタ州で発見された肉食恐竜、ティラノサウルス・レックス（T.レックス）の全身骨格の組立が終了し、この5月17日一般に公開されたということです。この標本は全身の骨の約90%が本物であり、この種の恐竜の化石としては最も完璧なものとして話題になりましたが、それにもまして一般的の関心事となつたのは、競売でシカゴ自然史

博物館が競り落とした価額です。1997年に行われたオークションで、840万ドル（約9億円）で入手したのです。博物館の最も大きな特徴は標本資料を持つことですが、こうした貴重な科学的標本が投機的な競売の対象となることにはいささか問題があるように思います。

これからも自然史部門での資料収集は更に困難になり、資料を互いに交流しあうパートナーシップの構築が何よりも大

事になりますが、このような入手方法はその妨げになるのではないかでしょうか。



トピックス●3~5月

日高敏隆博士講演会 4月23日(日)

中学校の教科書にも取り上げられた、著書「チョウはなぜ飛ぶか」でもおなじみの、滋賀県立大学長の日高敏隆博士の講演会がありました。ハチ、アリなど具体的な昆虫の生態を中心に、小さなお子さんから大人まで大変分かりやすく、ユーモアあふれるお話をいただき、会場も時折笑いの渦に巻き込まれるなど、熱気に満ちあふれました。また、日高博士と中川館長のトークショーでは、日高博士が子供時代に昆虫に興味を持つようになったきっかけを楽しくお話しいただきました。



メガン・ウォルシュ氏来館 5月16日

前号でもご紹介しましたが、IPAM（博物館相互の国際協力）事業により、当館の姉妹館であるオサンゼルス郡立自然史博物館より、教育普及事業の研修、及び共同プロジェクトの開発等を目的として、メガン・ウォルシュ氏が派遣されました。メagan氏は滞在中に、県内の複数の小学校で授業を行ったほか、県内の大学生に対しても講義などを行いました。



水系だより

生き物を展示するための必需品は?と聞かれると予備水槽と即答してしまうくらい、水族館や博物館ではなくてはならない存在です。今回はこの予備水槽の役割について紹介したいと思います。

当館でも第3展示室で生態展示をしているので、バックヤードには様々なサイズの予備水槽があります。ここでは主に展示生物の予備を常に管理しており、生き物の状態が良くない場合の交換や病気の治療を行っています。しかし、この他にも重要な役割を持ちます。餌料の培養、

水槽内で繁殖した仔稚魚の育成、飼育実験や研究のためなど、幅広い分野にわたって活用することができるのです。また、この充実は、維持管理する上で生物にとって棲みやすい環境を与えることにもなり、飼育実験や研究にも幅が広がり、知られていない新たな情報を展示を通じて公開することにもつながります。

このように予備水槽は展示水槽の補助的な役割だけでなく、常に私たち飼育職員にいろいろな疑問や興味を与えてくれる貴重な存在でもあるのです。



「Myひまわり」を植えよう 4月29日(土)

サイエンスデー「生物・科学の日」記念イベントの一環として、「Myひまわりを植えよう」を行いました。これは、博物館の野外の一画にヒマワリの種を植えてもらい、成長して花が咲き、タネが実ったらそのタネの一部を次年度の参加者のために提供してもらうという、何年にもわたってバトンタッチしながら続していくイベントです。参加者の皆さんには、ひまわりの大きく成長する姿を胸に秘めながら、熱心に土を耕し、種を植えていました。当日は他にも、ネイチャーコンサルタントによる花の種の配布などが行われました。

Visitor's Voice

こちらでは、イベントのアンケートや、館内投書箱に投函された「あなたの声」の中から、皆様のご意見を紹介します。今回は、日高博士講演会に参加された方のアンケートを紹介します。「昆虫学、動物学の楽しさだけでなく、何かを学ぶときの姿勢の大切さも教えられました。」「日高先生の身ぶり手ぶりを交えた話がとても面白かったです。」など、大変好評でした。これからも楽しいイベントを実施しますので、ご期待ください。



展示準備室の予備水槽

(大洗水族館：田中宏典)

インフォメーション (7~9月の行事)

自然観察会

7月23日(日)

『海辺の植物を観察しよう

(ひたち海浜公園)』

8月27日(日)

『ナウマンゾウをさがそう(花室川)』

9月24日(日)

『きのこの観察会(御前山)』

*集合場所・定員は観察会ごとに異なります。

自然講座(定員:40名)

8月6日(日) 13:00~15:00

『“ざりがに”から学ぼう身近な自然』

(対象:小学生以上)

自然教室(定員:40名)

7月8日(土) 10:00~12:00

『貝化石を掘ってみよう』

8月12日(土) 10:00~12:00

『水草を調べよう』

9月9日(土) 10:00~12:00

『菅生沼のミジンコを観察しよう』

(対象:小・中学生)

サンデー・サイエンス【楽しい体験教室】

月ごとにいろいろなテーマで、毎週日曜日にディスカバリー・プレイス内のスタジールームで実施しています。

観察や実験、工作などの体験をとおして、楽しみながら自然への関心を深める機会です。

テーマ

7月『星座早見盤をつくろう』

8月『カニの仲間をみてみよう』

9月『葉脈標本のしおりづくり』

時間 午前の部 10:30~12:00

午後の部 14:00~15:30

受付 開始1時間前から、スタジールームで受け付けます。希望者多数の場合は抽選を行います。

[観察会等への申込方法]

2週間前までに電話で申し込んで下さい。なお、希望者多数の場合は、抽選を行います(講座は先着順)。

また、本号発行時には受付を終了しているものもあります。あらかじめご了承ください。

ミュージアムパーク茨城県自然博物館
TEL 0297-38-2000

えいが会(定員:300名)[3階映像ホール]

7月16日(日)『アナ斯塔シア』

8月20日(日)『ドクタードリトル』

9月17日(日)『ガクの冒険』

上映時間 14:00~(ただし、『アナ斯塔シア』は10:30~)

入場無料(当日整理券を配布します)

自然なんでも相談

自然についてわからないこと、ふしきだな、と思っていることなど、なんでも気軽にご相談ください。

相談方法 博物館あてに質問を郵送するか、直接ご来館ください。

相談日 7月22日(土)

8月27日(日)

9月10日(日)

場所 ディスカバリー・プレイス観察コーナー

時間 13:30~15:00

その他のイベント

海の日特別イベント 7月20日(木)(当日受付)

クイズラリー、エビ・カニのおもちゃをつくろう

理科自由研究のヒントを見つけよう

7月22日(土) 10:30~11:30

定員300名 小学校高学年・中学生対象

*事前に電話でお申し込みください

【交通案内】



- 常磐自動車道谷和原I.Cから20分。
- JR柏駅で東武野田線乗り換え、東武野田線愛宕駅～茨城急行バス「岩井車庫行き」乗車～「自然博物館入口」下車、徒歩10分。
- 常磐自動車道谷和原I.Cから20分。



ご利用案内

[入館料]

区分	本館・野外施設	野外施設のみ
大人	520円(420円)	200円(100円)
高校・大学生	320円(200円)	100円(50円)
小・中学生	100円(50円)	50円(30円)

(注) : () 内は団体料金(20人以上)

企画展開催期間中については別料金となります。

つきの日の入館料は無料です。

●11月13日(茨城県民の日) ●春分の日

●4月29日(みどりの日) ●6月5日(環境の日)

●高校生以下の児童・生徒は、毎月第2・第4土曜日は入館無料です。(但し、春・夏・冬休み期間中を除く)

[開館時間]

午前9時30分から午後5時まで(入館は午後4時30分まで)

[休館日]

●毎週月曜日(祝日の場合は翌日) ●年末年始

ながらも、生物の生活術、子どもの可能性を伸ばすことの大切さなど、普段考えることの少ない事を再認識する、本当に良いきっかけとなりました。(N.I.)

【編集後記】

トピックスで紹介した日高博士の講演会には、私も裏方として参加しました。舞台袖に隠れて聞いておりましたが、博

士の(身ぶりが見られなくて残念でしたが)、専門的な内容であるにもかかわらず、小学生にも分かりやすい、そして本当に楽しいお話を聞き、笑いをかみ殺し

企画・編集: ミュージアムパーク茨城県自然博物館企画課 / 発行2000年6月25日

〒306-0622 茨城県岩井市大崎700番地 TEL0297-38-2000

ホームページ <http://www.nat.pref.ibaraki.jp/>

E-mail webmaster@nat.pref.ibaraki.jp

自然博物館ニュース A·MUSEUM(ア・ミュージアム)